

ゴマサバ (東シナ海系群) ①



■ゴマサバ東シナ海系群の現在の状況

ゴマサバは北太平洋に広く生息しており、本系群はこのうち東シナ海～日本海に分布する群である。

図1 分布図

産卵場は東シナ海中南部と薩南海域

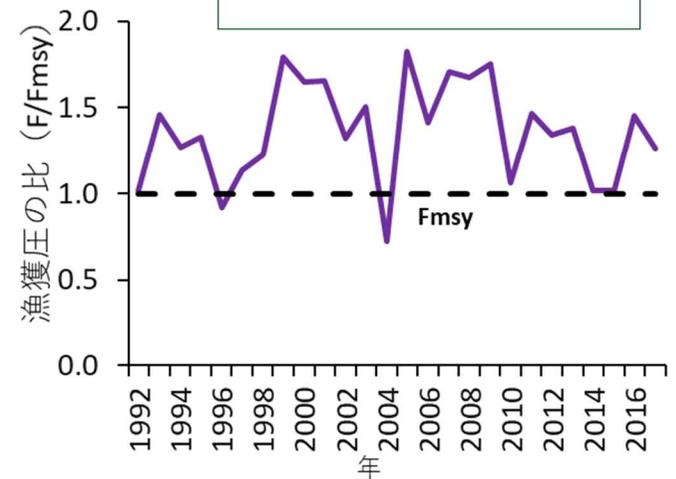
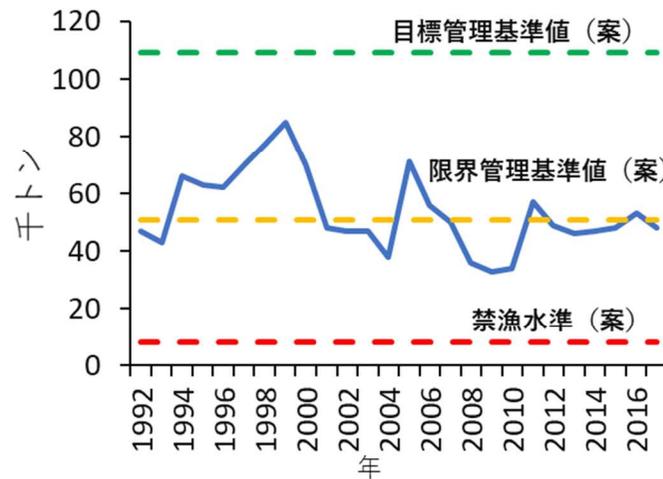
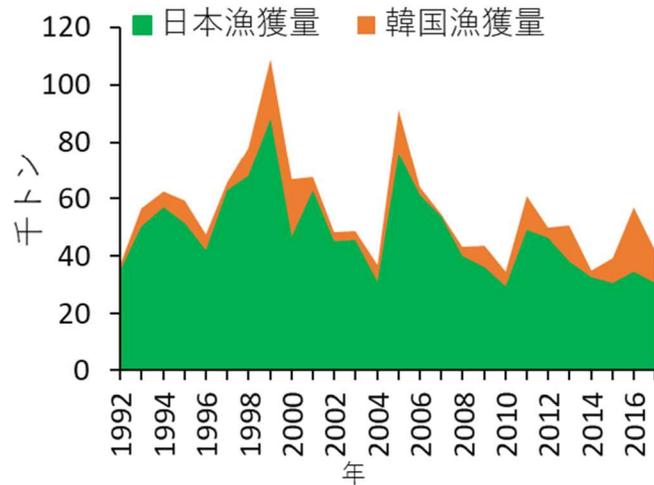
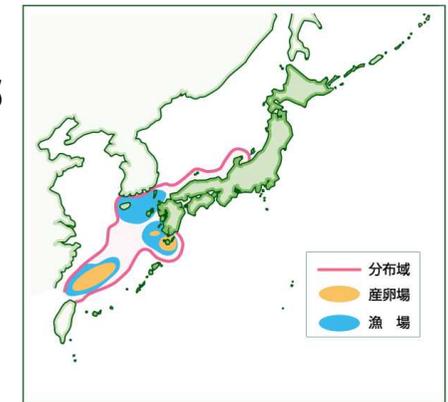


図2 漁獲量の推移

我が国の漁獲量 (緑色) には年変動があるものの、1970年代以降50千トン前後で推移している。近年では、2011年の49千トンをピークに減少傾向にあり、2017年は31千トン (日韓合計42千トン)。

図3 親魚量の推移

親魚量は比較的安定しており、2012年以降は50千トン前後でほぼ横ばい。2017年は、限界管理基準値案を下回るが、禁漁水準案は上回る。

図4 漁獲の強さの推移

漁獲圧 (F) は、1996年および2004年以外において最大持続生産量を実現する漁獲圧 (Fmsy) を上回っていた。

ゴマサバ (東シナ海系群) ②

■ 管理基準値案と漁獲管理規則案

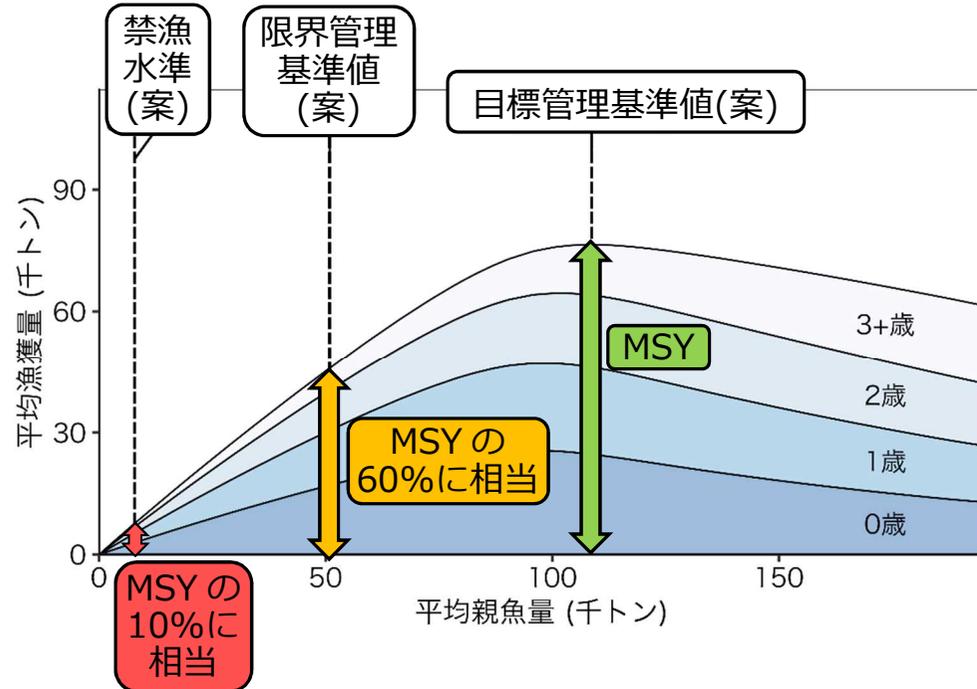


図5 MSYと管理基準値案の関係

本系群の目標管理基準値としては最大持続生産量 (MSY: 76千トン) が得られる親魚量 (SBmsy) を、限界管理基準値としては MSY の 60% が得られる親魚量を、禁漁水準としては MSY の 10% が得られる親魚量を提案する。

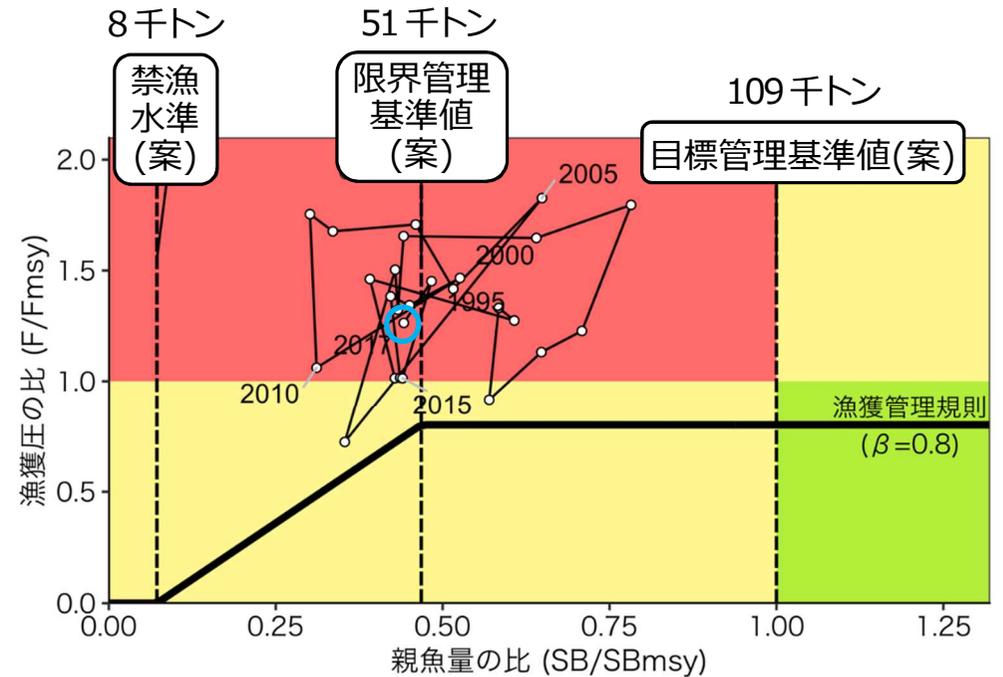


図6 神戸プロット (神戸チャート) と漁獲管理規則案

本系群は、1996年と2004年を除き、漁獲圧 (F) は F_{msy} 以上・親魚量は SB_{msy} 未満の領域 (図の赤い範囲) にあった。 β を 0.8 とした場合の漁獲管理規則案 (※) を黒い太線で示す。2017年のプロット (点) が黒い太線よりも上側に位置するため、2017年の F は、当該漁獲管理規則案に基づく F を上回っている。

※ β や漁獲管理規則案については「検討結果の読み方」を参照

ゴマサバ (東シナ海系群) ③

■ 将来の親魚量と漁獲量の予測

漁獲管理規則案 (現状の漁獲圧は参考) に基づいて算出

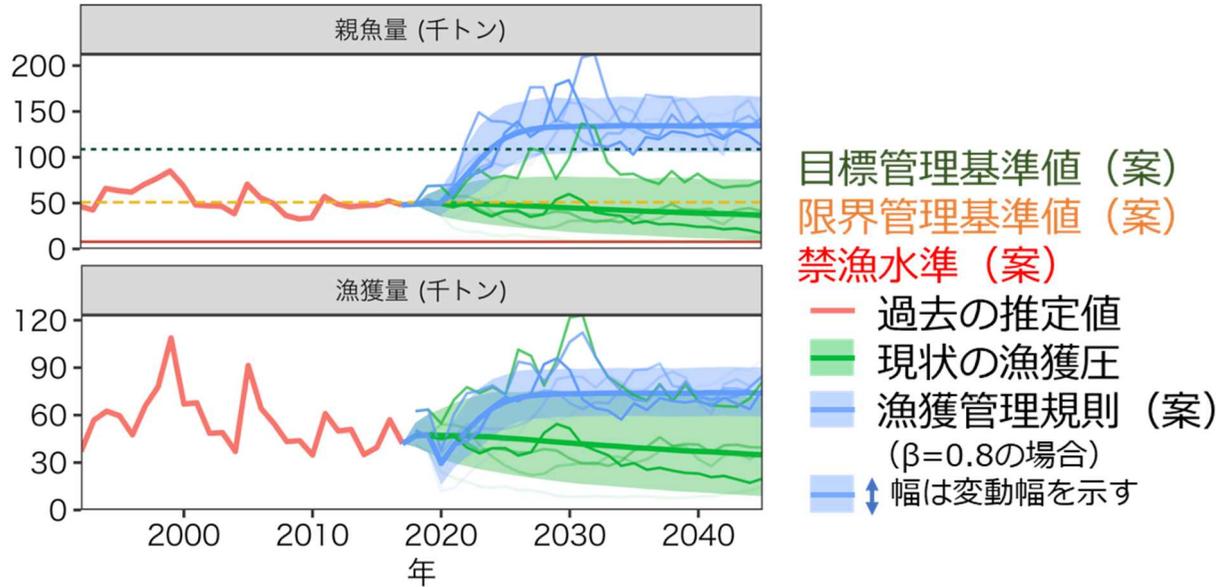


図7 親魚量と漁獲量の将来予測

β を0.8とした場合の漁獲管理規則案に基づく、親魚量は平均的には緩やかに増加した後、横ばい傾向を示す。また、漁獲量は、平均的には現状の漁獲を継続した場合の2倍程度になることが期待される。 β が0.9以下の漁獲管理規則案であれば、10年後に目標管理基準値案を50%以上の確率で上回る(表)。

表 管理基準値案を上回る確率と2020年の漁獲量

β	10年後(2030年)に親魚量が限界管理基準値(案)を上回る確率(%)	10年後(2030年)に親魚量が目標管理基準値(案)を上回る確率(%)	2020年の漁獲量※(千トン)
1	99%	43%	35
0.9	100%	67%	32
0.8	100%	85%	29
0.7	100%	96%	26
0.6	100%	99%	23
0.5	100%	100%	20
0.4	100%	100%	16
0.3	100%	100%	12
0.2	100%	100%	8
0.1	100%	100%	4
0	100%	100%	0

※最新の資源評価により更新されるため、将来の生物学的許容漁獲量(ABC)を確定的に示すものではない。また、この漁獲量は日本および韓国の合計値である。

シミュレーションによる2020年の漁獲量は、今期の資源評価結果によりアップデートされます。